

## 早稲田高田馬場の地域通貨

### アトム通貨

**地域通貨とは** 「地域通貨」とは、ある特定のコミュニティの中で、互いに助けられ支え合うサービスや行為を、時間や点数、地域やグループ独自の紙券などに置き換え、これを「通貨」としてサービスやモノと交換して循環させるシステムのことをいう。「国民通貨」である「円」などとは違った「もうひとつのお金」ともいうべき働きをするものだ。

**地域通貨普及の背景** まず、地域通貨を理解するために、シルビオ＝ゲゼルの「劣化するお金」という発想に少しふれておきたいと思う。シルビオ＝ゲゼル(1862～1930)はドイツ生まれの実業家・経済学者である。彼は24歳のときにアルゼンチンに渡り、国内の経済混乱からアルゼンチンの通貨問題に着目する。1916年にドイツで「自然的経済秩序」を刊行。彼の利子についての理論は、修正資本主義の元祖であるケインズによっても、大いに評価された。ゲゼルの考え方は、お金の価値を時間の経過とともに劣化させることで、お金を手にしたらすぐにそれを使うように奨励するというものである。この仕組みによって、お金が一部の者の所有物として滞りにくくなり、よりスムーズに循環するようになるというものだ。この発想は利子が利子を生む現代の貨幣システムとは異なるものである。

現在、日本全国に地域通貨は300種類以上あるといわれているが、これだけの地域通貨が実施されるようになった背景には、「劣化するお金」について紹介した「エンデの遺言－根源からお金を問う－」(NHK出版)の影響が大きいといえよう。この作品がきっかけとなり、日本全国で地域通貨に関心を深めていった人たちが飛躍的に増加したのである。

**アトム通貨とは** 東京都新宿区の高田馬場・早稲田地区で2004年4月7日から開始した地域通貨プロジェクトで、「地球環境にやさしい社会」「地域社会にやさしい社会」「国際協力で積極的な社会」の3つの理念を柱にまちづくりプログラムとして実施されている。

マンガ「鉄腕アトム」の物語の中で、アトムは2003年4月7日高田馬場にある科学省から誕生したとなっているが、これにちなんで、アトム通貨は鉄腕アトム1歳の誕生日に誕生した。地域貢献やエコ活動、国際

協力など「いいこと」をしてくれた人に「アトム通貨」を手渡す「ピッチャーズプロジェクト」と、手にした「アトム通貨」で買い物やサービスを楽しんでもらう「キャッチャーズプロジェクト」の

2つのプロジェクトからなり、通貨が循環する仕組みになっている。通貨の単位は馬力。1馬力は1円と換算。紙幣は十馬力、百馬力、千馬力の3種類。

「ピッチャーズプロジェクト」にはたくさんの「いいこと」が用意されている。たとえば地球資源保護のために、myバッグや箸、容器の持参の普及を推奨する「myバッグ」「my箸」「my容器」。実施店舗で包装不要の人や、myバッグを購入したり、箸や容器を持参したりした人が十～百馬力をもらえる。「アトムクリーン大作戦」では、地域のゴミ拾い清掃活動、環境美化活動に参加した人に百馬力、子どもたちにアトム通貨の理念をわかりやすく伝えるための紙芝居を制作する「かみしばいプロジェクト」に参加すれば百馬力がそれぞれもらえるなど、他にもたくさんのプロジェクトがある。買い物などの支払いに利用できる「キャッチャーズプロジェクト」の加盟店舗・団体数は約210。店舗などで回収されたアトム通貨は、団体や個人の寄付で設立したアトム基金によって現金に交換される。

**アトム通貨に込められた想い** マंगा「鉄腕アトム」の作者をご存知のとおり、手塚治虫さんである。手塚治虫さんは、生命の尊厳をテーマとした数多くの作品を世に残した。その想いを21世紀に生きる私たちがどのように受け取め、どのようにカタチにしていくのかをどこかで手塚治虫さんから見守られているような気がしてならない。「未来の子どもたちのために すべての子をこえて ガラスの地球を救え」これはアトム通貨の紙幣にも記されているアトム通貨の大切なビジョンであり、生前の手塚治虫さんが私たち未来人へ託した熱い願いでもある。私たちが生きているこの地球が、本当にLOVE&PEACEに満ち溢れた美しい存在に向かっているのだろうか。未来の子どもたちのためにも、真剣に現実に立ち向かい、ひとりひとりが変化をつくり、未来を創造していくことが大切ではないだろうか。

(アトム通貨実行委員会 松田卓也)